

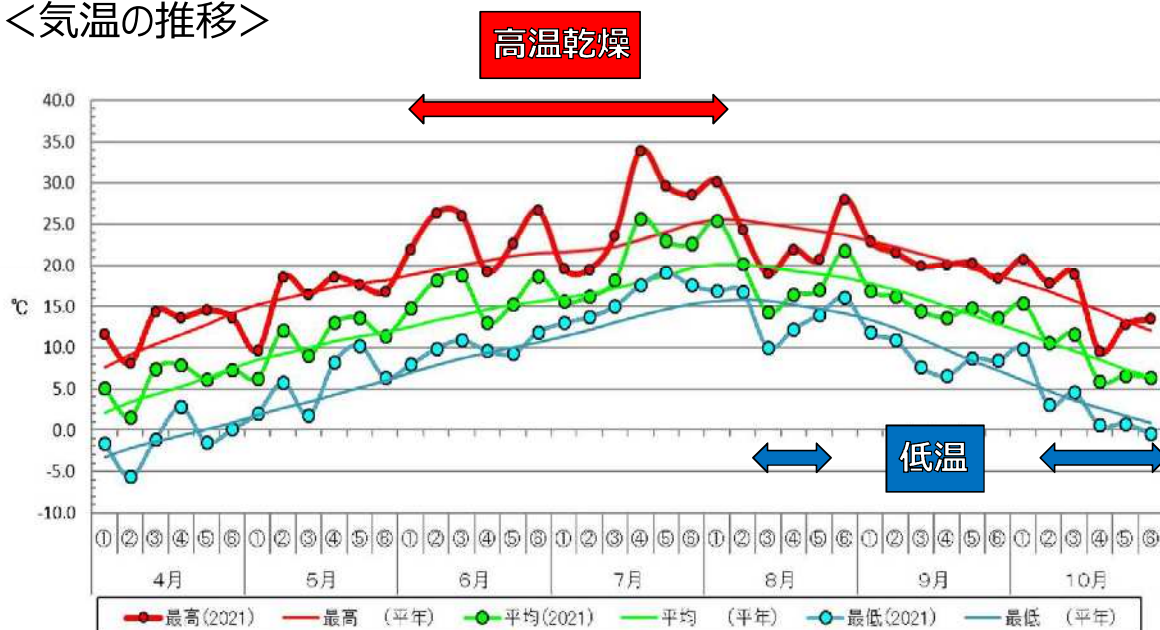
ブロッコリー栽培の要点

～令和3年産を振り返って～

J A おとふけ 販売部青果課

令和3年産の気象経過

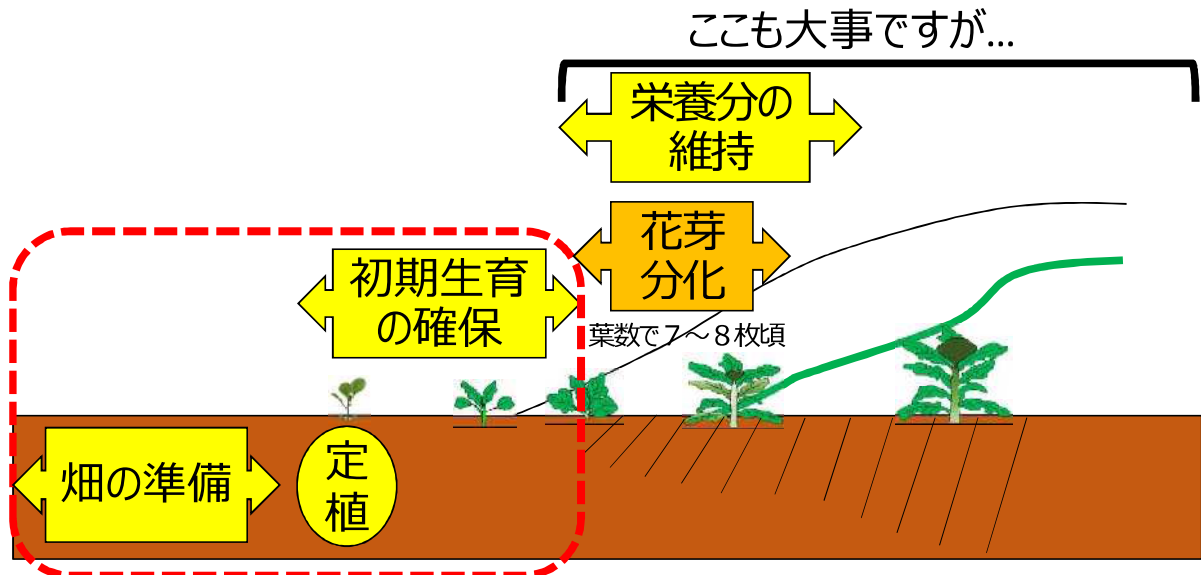
<気温の推移>



- 近年、異常気象（特に春～夏の高温・乾燥）に悩まされる。
- 安定して収量を確保するためには、何が大切だろうか。

ブロッコリーの安定生産に向けて

安定生産のポイントは、苗を速やかに畑に活着させ、花芽分化までの期間を確保して、多くの葉数・葉面積を確保すること



栽培ポイントを確認して安定生産へ！！

畑の準備

確認ポイント①

- pHは適正か

- pHは6.0以上に矯正
- 定期的な土壌診断を実施



確認ポイント②

- 土壌の物理性は適正か

- 土塊の細かい土壌が理想
- 土壌水分が多いときの整地は禁物



根張りの遅れで生理障害（ボトニング等）の要因となる

定植について

確認ポイント③

- 丁寧な植え付けがされているか



- 植え付け深度が不十分である場合、根張りに失敗し苗の枯れ、生育の遅れ、生理障害が懸念される。

良い事例

砕土良好



セル見えない

悪い事例

土塊粗い



セル飛び出ている

生理障害について

ブラウンビーズ



不整形

高温乾燥のストレス、収穫遅れ

リーフィ



花蕾肥大期の窒素過多・高温



- 生育初期から栄養吸収に支障をきたさない (pH、肥料)

生理障害について



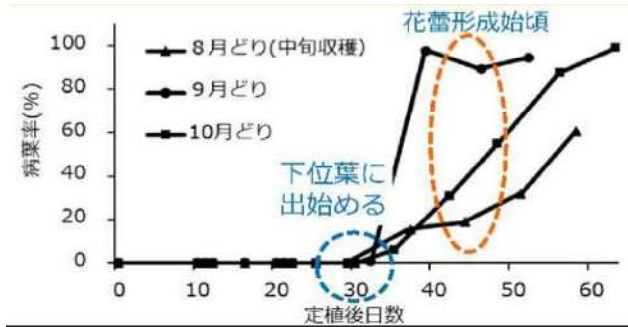
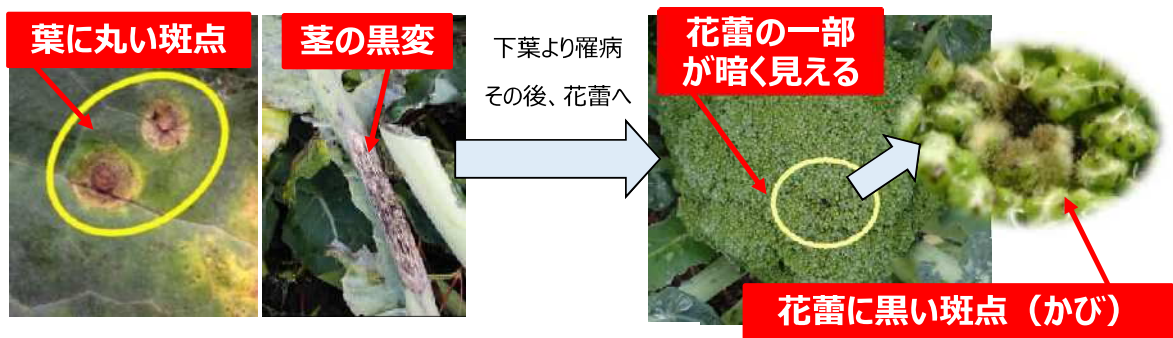
ポトニングが遠因、気温によるストレス、活着不良（根痛み）



- 根張りのよい土壌づくり
- 根痛み防止

黒すす病対策

8月中旬以降に収穫する作型は要注意。
 葉で発病が見られ、花蕾形成始に葉の発病が増加。
 花蕾に黒変を生じさせる。



定植後30日ごろから発病・・・
 40～50日後には拡散！

黒すす病対策

<病徴>

- 発病は高温（25℃以上）、風雨で飛散。
- 生育後半で葉での発病が急増、花蕾への被害に繋がる。



**葉の発病を少なくし、出てきた花蕾を病原菌から守る。
これがポイント！**

ちなみに…

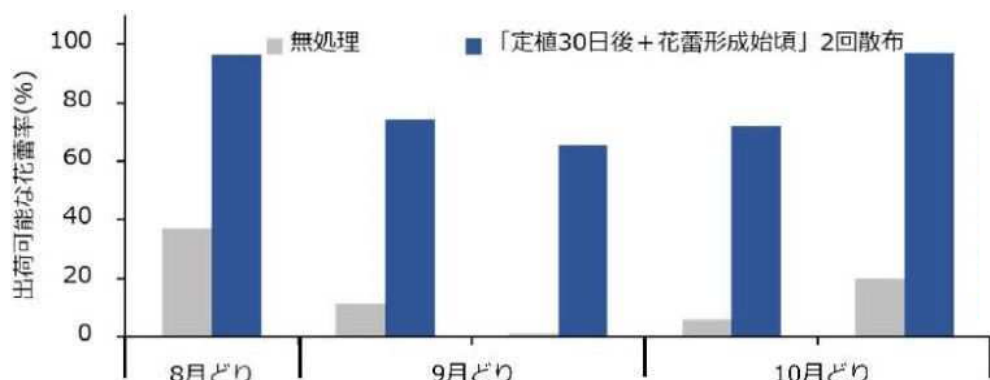
葉の症状は「べと病」に類似



- 低温により発病
- 夏以降の低温期に発生が確認されました（9月に発生が多い）

黒すす病対策

**定植後30日後と花蕾形成始頃の2回散布が有効。
出荷できる花蕾が増える。**

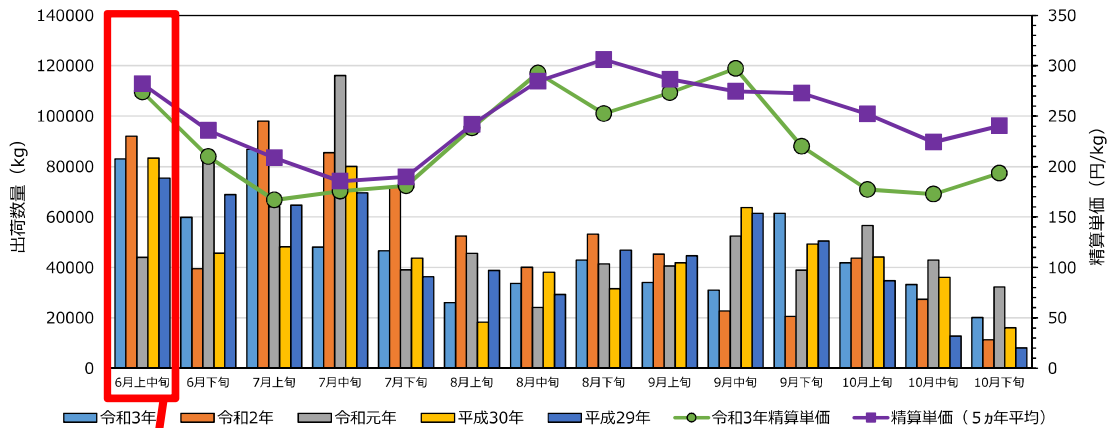


防除薬剤

- アミスター20フロアブル（べと病の登録もあります）
- パレード20フロアブル
- アフェットフロアブル

さらなる収益向上をめざして

過去5年間の旬別出荷数量の推移



6月上中旬...安定して価格の高い時期。



収益向上には、この時期に安定した収量を確保する必要がある。

6月上中旬どり作型について

- 病害のリスクが低い
- 収穫期の高温による品質劣化は少ない

- 霜害・低温によるリスク (活着不良、生理障害)
- 温床資材に係る労賃・費用

この部分に係る助成としてとも補償制度があります



ポイントを抑えて安定した収量を確保！

畑の準備

- pHの矯正
- 物理性の改善

定植

- 植付深度
- 根張りの重要性

生理障害の抑止

- 要因の排除
- 初期生育促進